サケ

関連ニュースはこちら

木戸川の漁再生へ　稚魚４４０万匹放流　福島・楢葉

毎日新聞 2017年3月31日 00時00分（最終更新 3月31日 00時08分）

福島県　気象・地震　速報　社会

木戸川にサケの稚魚を放流する子どもたち＝福島県楢葉町前原で２０１７年3月３０日午前１０時３２分、乾達撮影

［PR］

福島県楢葉町の木戸川漁協は、昨年捕獲したサケから採卵し、育てた稚魚を中心に４４０万匹を木戸川下流で放流した。放流数は１２００万匹を超えていた東日本大震災前には及ばないものの、昨年の３倍強で、豊漁復活に向けた一歩を踏み出した。

３０日は町内の子ども約１０人も参加し、岸からバケツで１万匹を流した。青木苺香（いちか）ちゃん（５）は「楽しかった。大きくなって帰ってくるのが楽しみ」。町立楢葉中学校２年の鎌田一輝さん（１３）は「帰ってくる時に見に来たい。自分も成長しレーサーになる夢をかなえていたい」と話していた。

木戸川のサケは震災前には、年平均７万匹の漁獲を誇った。だが、原発事故による全町避難もあって漁が一昨年に再開するまで５年間途切れ、放流もほとんどできなかった。サケは４～５年かけて生まれた川に戻るため、昨秋の捕獲数は７３２９匹まで減少した。

ただ津波で壊れたふ化場の再建で育てた稚魚は昨年の１３５万匹から４２５万匹に。購入分１５万匹を加えて放流した。稚魚が期待通りに帰ってくれば、漁獲は２万匹程度まで回復し、１０００万匹超の放流も可能になる。

松本秀夫組合長（６９）は「復活には、稚魚の子どもの代が帰るまでの７～８年かかる。地道にやるしかない」と語った。【乾達】